



— 読者からの質問④ —

引き続き読者からの質問と回答です。中には「今さら聞くに聞けない」ような質問だけど重要な質問もありました。

質問5 インターネットで馬に生卵を給与するという話をみかけたのですが、どのような効果があるのか、また気を付けることがあれば教えてください。当方、卵が手に入りやすい環境にあるため、問題なければ試したいと思っています。

回答5 馬に卵を給与することはあまり一般的ではありませんが、給与が何らかの問題となることはありません。実際、イギリスやアイルランドでは与えられているケースもあると聞きます。ご承知のように、卵は完全栄養食品（すべての必要な栄養素が含まれている）として認識されており、タンパク質をはじめ、ミネラル、ビタミンなどが豊富に含まれています。とくにタンパク質を構成するアミノ酸組成は良好で、ミルク、チーズ、魚などの動物性タンパク質とともにバランスの取れたアミノ酸摂取を目的として馬に給与されることがあるようです。効果は通常のアミノ酸摂取時同様、筋肉、被毛、蹄、皮膚などに対する有効性が期待されますが、これらは卵を摂取させなければ達成できない効果ではなく、牧草や大豆粕などから摂取するタンパク質でも当然問題ありません。ただ、同量のタンパク質を摂取させるには、卵の方がコストはかかると考えられます。与え方は生のまま他の飼料と混合するのが一般的なようです。殻のまま混合する(カルシウム補給目的で)こともあるようですが、サルモネラ菌汚染を心配する意見もあり、殻を割って中身だけ与える方が無難かもしれません。また、成馬では、馴染みがないタンパク質に対してアレルギー反応（蕁麻疹など）を示すこともあるので与え始めには嗜好性とともに馬体の変化に注意が必要と考えられます。

報告 8頭のうち1頭は卵が嫌いなようでエサを食べなくなりましたが、他の7頭は最大で1日に9個与えても、アレルギーなどの問題もなく食べてくれました。

質問6 私の大学で飼育している馬は、とてもお腹が出ていて太っているように見えます。年齢の違う5頭とも同じような体型をしています。他大学や乗馬クラブの馬の下腹は引き締まりお腹の中腹が膨らんだ形をしています。飼料をあげすぎているのかと考え、乾草は減らさず濃厚飼料を減らしてみたのですが、あばらやヒバラの脂肪が落ちただけで、お腹の張りは取れませんでした。普段の運動は速歩が中心で、駈歩はあまりしていません。お腹が出ているというのは、そもそも健康状態に問題があるのか、あるいは、他に原因があるのでしょうか。また、乾草と運動量が合っていないとお腹が出やすいと聞いたのですが、本当でしょうか？

回答6 お腹が張っているのは、大腸が内容物で充満していることによります。では、なぜ充満しているのか？については、大腸内容物のほとんどを占める水分と牧草由来の繊維のうち、とくに繊維の滞留時間が長いことが原因と考えられます。乾草の質はさまざまですが、繊維成分が高い乾草を自由摂取させるとその消化に時間を要するため（換言すると排泄を上回る速度で次から次へと繊維が大腸に送り込まれてくるため）、大腸内容物量が増加します。若く消化管も健康な馬であれば、水分さえ自由に摂取できればこうした状態でも問題はありませんが、高齢馬では疝痛発症の原因となることもあります。対策として、①より繊維成分が低い（茎よりも葉の割合が多い）乾草に切り替える、②消化性の高い繊維飼料であるビートパルプを併用する、③ヘイキューブを給与前に水に漬けてふやかしてから与える、などが考えられます。

飼料から供給されるエネルギー量が馬の要求量に比べて少ない可能性も考えられます。このような場合、馬はより多くのエネルギーを摂取しようと繊維質の高い乾草（場合によっては敷料も含め）を多く摂取し、結果的に必要以上に大腸内容物を増加させてしまう、というものです。運動量はそれほど多くはないようですが、馬体のボディコンディションスコア（カイバ道場 vol.4参照ください）を測定するなどして、適切なエネルギーが供給されているかどうかを確認されることをお勧めします。以上から、「乾草と運動量が合っていないとお腹が出やすい」は、運動に必要なエネルギーを質の低い乾草でまかなわなければならない馬はお腹がでる、という意味的を得ていると言えます。

皆さまからのカイバに関する質問に朝井博士が答えます。JRA ファシリティーズのHP内にある「愛馬のためのカイバ道場」の問い合わせフォームからお寄せください。

▶▶▶ JRA ファシリティーズ HP アドレス: jra-f.co.jp